

私たちが考える医療の社会的責任

医療における CSR とは、倫理・法令の下、地域に貢献する誠実な組織として安全で良質な医療サービスを提供すること。

この姿勢こそが、医療の社会的責任と私たちは考えます。

そもそも医療、保険、福祉事業は社会貢献的分野であり、医療施設は地域コミュニティの核として、その存在が認知されています。

苫小牧市の明野という地域において、理念とともに求められる役割について向き合い、取り組んでいる私たちの事例をご紹介します。



地域連携

地域連携クリティカルバスを運用し 苦小牧を守る医療体制を構築

地域の医療連携推進の一環として、苦小牧市立病院や王子総合病院と大腿骨頸部骨折や脳卒中を対象に地域連携クリティカルバスを運用しています。

この運用によって、地域内での診療の可視・標準化が図られ、患者さんが在宅に戻られるまでの経過を分かりやすく示すことができます。

また、治療の段階や目標の到達度といった情報をスタッフ、患者さん、ご家族と共有することで、安心した治療を受けられることにつながります。

今後も地域の一員として、他病院、施設、行政や住民との連携を強化し、正確な情報を共有し、より安心・安全な医療を提供できるよう努めてまいります。

※地域連携クリティカルバスとは、急性期病院(苦小牧市立病院、王子総合病院)から回復期病院(当院)を経て、在宅までの目標や治療、検査内容を診療計画として設定し、治療を受ける全ての医療機関で情報を共有して医療を提供するものです。

リハビリ 推進活動

東胆振地域におけるリハビリ施設の拠点として 地域に目を向けたリハビリテーション活動を実践

リハビリテーション部では、院内だけではなく、地域におけるリハビリテーションも視野に入れた活動を行っています。平成 21 年度(2009)までに、むかわ町の介護予防事業に協力し、特定高齢者の身体機能評価を行い介護予防教室活動のアドバイスや、運動機能向上のための講話、個別の指導・助言を行っています。

また、「東胆振地域リハビリテーション推進会議」や「苦小牧リハビリテーション研究会」の運営に関わり、地域の方が適切なリハビリテーションサービスを受けられるよう知識の共有や人材育成を支援するための講演会や発表会を開催しています。

その他にも、苦小牧市医師会の看護学校やリハビリテーション養成校への講師派遣、市内の老人クラブなどからの講話の依頼を受け、地域のリハビリテーション普及に努めています。

地域への 啓蒙活動

支援センターの活発な啓蒙活動

苦小牧市の委託を受け平成 21 年(2009)に開設した「苦小牧市明野地域包括支援センター」では、活発な啓蒙活動を展開しています。

情報発信として、市内の新聞に「窓・あすの介護を見つめて」と題して 8 回の連載記事を寄稿しました。

また、「教育と福祉を考える」というテーマで開催された地域懇談会には 3 回にわたり参加し、「地域の課題は何か」「困っている人のために何かできないか」などについて一緒に検討しました。さらに、住民組織(町内会・民生委員・老人クラブなど)定例会の参加や、個別の連携対応などを通じて地域貢献に努めています。

地域との ふれあい

病院を知り、現場を学ぶ 未来の医療スペシャリストの職員体験

●大学・専門学校実習生の受け入れ

これまでの医療のスペシャリストを目指す大学・短大、専門学校の実習生を受け入れてきました。

最近では「苫小牧看護専門学校」の看護実習生をはじめ、栄養科やリハビリテーション部、薬剤科、地域連携室、医事課など、それぞれの職種での専門的治療や業務について学んいただきました。

●ふれあい看護体験

毎年5月12日の看護の日あわせて、苫小牧市内にある高校の看護希望者を受け入れ、看護体験を実施しています。当院の医療体制や看護師の仕事内容についてレクチャーした後、院内見学、入院患者の食事介助、手足洗淨などのケアの補助、さらには車いすの操作を自ら体験してもらいます。

現場の職員それぞれが講師となり、入院患者さんの協力を得て行われる「看護の現場体験」は教える私たち、学ぶ生徒双方にとって有意義な一日となります。

●地域のお祭りや交流会への積極的な参加

当院を退院後に利用される各施設の夏祭りや、明野柳町町内会の新年交流会などの行事に積極的に参加しています。

利用施設や地域との関わりや取り組みに直接触れることから、理解を深め、信頼づくりに役立っています。

環境保全

医療施設ができる ECO 高まるスタッフの意識、環境保全への配慮

これまでさまざまな環境保全に取り組んできました。省エネ対策として「エコカーへの切り替え」「照明の切り替え(年間電気使用量1%削減)」を実施したり、また、節水弁を設置し、水道使用量を9.4%削減、重油使用量も6.3%削減しました。

さらに、リサイクルへの意識も高まり、段ボールは13トン、ペットボトル0.7トン、ビン0.6トン、空き缶0.5トンと毎年徹底し、ペットボトル回収3万個を突破しています。この他、厨房から出る汚水を浄化するシステムの導入とともに、病院周辺のゴミ拾いは随時、全職員参加にゴミ拾いは年2回実施しています。以上のような実勢を年度別に比較し、各データを職員に公表し、職員一人ひとりのさらなる意識向上に努めています。

支援活動

里親になって 30 年 国際NGO「プラン」と「あしなが育英会」への支援

発展途上国に住む子どもたちの里親（フォスターペアレント）になって、その家族と地域に経済的・精神的な援助を行う「フォスタープラン」。当院では、この国際支援を開院の平成元年から続けています。きっかけは「グローバルな視点で、病院と地域の未来への希望を持ち続けるためにささやかでも何かできることはないだろうか」という橋本理事長の一言で、開院直前の9月から始まりました。

これまでインド、ポリビア、インドネシアなどの子どもたちを支援し20年が過ぎました。これからも若い子どもたちの成長を見守り続けていきたいと考えています。

また、交通遺児支援から端を発し、病気や自死、災害による遺児を支える会へと発展した「あしなが育英会」へも支援を続けています。

これからも可能性を秘めた子供たちの成長を見守り続けていきたいと考えています。

施設連携

充実した入・退院の連携

苫小牧東病院の特徴に、病院・施設連携の充実が挙げられます。

平成21年度(2009)を例とすると、市内・近郊のおよそ40施設との間で入・退院の連携が取られています。また、当院との連携ならびに協力関係を結んでいる4つの社会福祉法人の間では、入・退院がそれぞれ200名余にもものぼり、利用者の方の医療に貢献しています。

医療と福祉におけるそれぞれの役割分担とその機能が有効活用されています。